

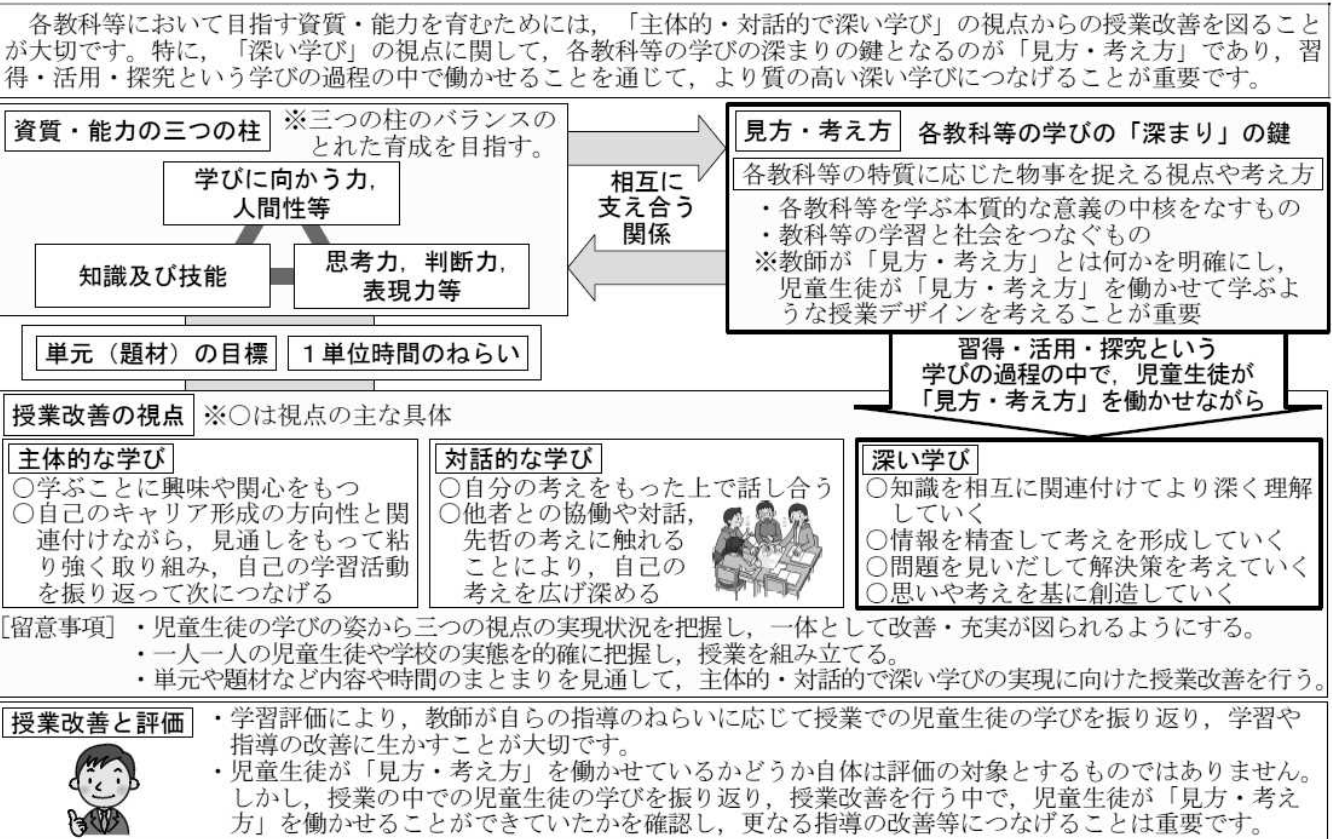
「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進める際には、子ども

（２）授業デザインと「見方・考え方」

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進める際には、子ども

単元（題材）及び授業構想のポイント

資質・能力を育むための「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善



理 科 科学的に探究する活動を充実させるための指導の手立て

理科で育成を目指す資質・能力のうち、思考力、判断力、表現力等には、科学的に探究する力（小学校：問題解決の力）が位置付けられています。その資質・能力を育成するためには、児童生徒が理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する活動の充実を図ることが大切です。

【中学校第2学年指導事例】単元名「化学変化と原子・分子～化学変化と物質の質量～」（5/6）

生徒の発言例は、見方・考え方を働かせている具体的な姿

ねらい：金属の質量と化合する酸素の質量の比は一定であることを、金属を加熱したときの質量の変化を調べる実験を通して、見いだすことができる。

学習過程

① 問題課題

② 仮説

③ 計画立案

④ 観察・実験

⑤ 結果処理

⑥ 考察

⑦ まとめ

⑧ 振り返り

⑨ 次の問題

各過程において育成を目指す思考力、判断力、表現力等と指導の手立て

①問題を見だし、課題を設定する力

複数の事象を比較して、共通点や相違点を基に問題を見だし、課題を設定できるよう、事象提示を工夫したり、何について明らかにすればよいかを考える場を設けたりする。

②仮説を設定する力

既習の内容と関係付けて、根拠のある仮説を発想できるよう、既習の内容を想起する場を設ける。

③観察、実験の計画を立案する力

条件を制御して観察、実験の計画を立案できるよう、変化させる要因と変化させない要因を確認する。

④観察、実験の結果を分析・解釈する力

観察、実験の結果を適切に分析して、科学的な根拠を踏まえて論理的に思考できるよう、考察の視点を与えたり、互いの考えの妥当性を検討する場を設けたりする。

⑤まとめ

グラフに着目して、金属の質量と化合する酸素の質量の関係について考察しましょう。個人で考えた後、グループで話し合しましょう。

⑥振り返り

⑦次の問題

⑧まとめ

⑨次の問題

⑩まとめ

⑪次の問題

⑫まとめ

⑬次の問題

⑭まとめ

⑮次の問題

⑯まとめ

⑰次の問題

⑱まとめ

⑲次の問題

⑳まとめ

㉑次の問題

㉒まとめ

㉓次の問題

㉔まとめ

㉕次の問題

㉖まとめ

㉗次の問題

㉘まとめ

㉙次の問題

㉚まとめ

㉛次の問題

㉜まとめ

㉝次の問題

㉞まとめ

㉟次の問題

㊱まとめ

㊲次の問題

㊳まとめ

㊴次の問題

㊵まとめ

㊶次の問題

㊷まとめ

㊸次の問題

㊹まとめ

㊺次の問題

㊻まとめ

㊼次の問題

㊽まとめ

㊾次の問題

㊿まとめ

資質・能力を育成する

「見方・考え方」を働かせることを通じて

資質・能力を育むための「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めるに当たり、特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」である。

「見方・考え方」は、新しい知識及び技能を既にもっている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものとしたり、社会や世界にどのような関わりかを視座を形成したりするために重要なものであり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが求められる。

この「見方・考え方」とは何なのか、「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する授業の実現に向けてどのようなことに配慮すればよいのだろうか。

I 「見方・考え方」とは何か

（１）「見方・考え方」の定義

学習指導要領総則において、「各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方」と定義されている。言い換えれば、各教科等にはそれぞれ学習対象があるが、その学習対象にどのようにアプローチしてどのような視点や考え方で捉えるのかという教科等の本質に迫るための視点や考え方が「見方・考え方」である。

従来から数学や理科などの一部の教科においては類似の概念が用いられてきたが、今回の学習指導要領では、そうした従来の整理とは別に、全ての教科について、再整理している。

（２）「深い学び」と「見方・考え方」

今回の改訂における審議では、「主体的・対話的で深い学び」を実現する上で、各教科等の資質・能力の育成の観点からは「深い学び」の視点は極めて重要であるとされていた。「深まり」を欠くと表面的な活動に陥ってしまうという指摘もあったからである。

また、「主体的な学び」や「対話的な学び」はその趣旨が教科共通で理解できる視点であるのに対し、「深い学び」の在り方は各教科等の特質に応じて示される必要があるとされ、各教科等の学びの「深まり」の鍵となるのが「見方・考え方」であるという見解が示された。

（３）「見方・考え方」と資質・能力の三つの柱の関係

学習指導要領において「見方・考え方」は、育成を目指す資質・能力の三つの柱とは別の概念として整理されている。

「見方・考え方」は「深い学び」の鍵になるものとされているが、これは「見方・考え方」を働かせることによって資質・能力が育まれるということである。すなわち、各教科等の学びを通じて子どもたちが資質・能力を獲得する過程で、子どもたちが「働かせる」ものである。

また、「見方・考え方」を働かせることで資質・能力が更に育まれたり、新たな資質・能力が育まれたりする。またそれによって「見方・考え方」が更に豊かなことになる。というように、「見方・考え方」と資質・能力は相互に支え合う関係にあるとされている。

（４）「見方・考え方」と当該教科等を学ぶ意義

今回の改訂においては、なぜそれを学ぶのか、それを通じてどのような力が身